

私のお寺への第一歩－現在の活動－

仏教壯年会連盟理事長 種村 美樹

私がお寺に足を運ぶようになったのは、25年ほど前になります。

幼少期にはじめた水泳のため16歳から寮生活を送り、就職も愛知県で地元の三重を離れていたこともあり、それまでは一度もお寺に足を運んだことがありませんでした。

子どもが小学生になるのを機に、三重に帰ることを考えての海外赴任で日本を離れ、私のお寺への第一歩は、体調を崩しながらも渡航を後押ししてくれた父が亡くなり帰国した時になります。

その後、地元に戻り、伯父から誘われて、何もわからないまま参加したのが、源光寺の仏教壯年会活動でした。ご高齢の方ばかりのなか、当時35歳の私は話をただ聞くだけでしたが、先輩方が親身にお寺のことを教えてくださり、その後、員弁（いなべ）組、東海教区、そして第2連区大会にも参加し、お聴聞を重ねました。

み教えを依りどころにお聴聞し、朋友との出会いを大切にお念佛の輪を拡げるため、源光寺や組での仏壯活動を通じてご縁づくりをすすめた結果、今では仏壮会員の平均年齢も若くなり、活気ある活動となっています。

仏教壯年会連盟理事長に就任した現在は、連盟の組織拡大と活動の充実をすすめておりますが、過疎高齢化、お寺離れ、生活スタイルの変化で、取り巻く環境は年々厳しくなっています。連盟綱領にある「われわれ仏教壯年は、自らの生き方を親鸞聖人のみ教えに聞き、ともにお念佛申す朋友の輪を拡げ、心豊かに生きる社会の実現をめざす」を目標に、組織の活動の拡大と活動の充実をすすめ、持続的な活動ができるよう努めています。

「お寺に来てよかったです」「仏壯はいいな！」「お寺が依りどころになった」と喜んでいただけのよう、全国の仏壮会員、評議員の方々とともに活動の活性化を図っていきたいと思います。活動の原点でもある「お念佛」を大切にしてお聴聞に励み、朋友の輪を拡げ、社会に貢献していく仏教壯年会連盟になるようご縁を大切に精進してまいります。

(「宗報」2024年2月号 卷頭言より転載)